

# リーダーになる!

実践する上司学。  
よきリーダーに、よき上司になるために。



嶋津良智朗リーダーズアカデミー学長。早稲田大学講師。大学卒業後、IT系ベンチャー企業に入社、トップセールスマンとなり、24歳で最年少営業部長に就任。1993年に独立、起業。94年に共同で情報通信機器販売の新会社を設立。2004年にIPOを果たす。05年に教育機関、「リーダーズアカデミー」を設立。

## 第15回 上司の果たす役割

サラリーマン時代の上司で2人の方と今でも親交があります。お2人との食事を催して、ふと気づいたことがあります。

サラリーマン時代に上司は何人かいましたが、ある日、親しくお付き合いさせていっている2人の上司とわたしを含めた当時の部下たちで、食事をする機会がありました。

1人目の上司と食事をした時は当時の部下が10人集まり、そのうち5人が社長、2人が上場会社の管理職、2人が未上場の会社ですが80億くらい売上上げているベンチャー企業の管理職、そして1人はまだ小規

模ながらベンチャー企業の取締役という立場で仕事をしています。もう1人の元上司と食事をしたときは、当時の部下がわたしを含めて5人集まったのです。が5人全員が社長。

### 人材の育成は社会への貢献

このようなことは、別にわたしの周りだけに起こっていることではなく、皆さんの周りにも起こっている

現象でしょう。

わたしの著書『だから、部下がつかない!』の中でも触れていますが、要するに、たった1人の優秀な上司がいることにより、何人の優秀な人材が社会に排出されて世の中に貢献していくことになるのでしょうか。逆に、上司がふがいながゆえに、何人の部下の人生を台無しにしているのでしょうか。幸いにもわたしは素晴らしい上司に恵まれて今があるのですが、わたしもダメ上司の下で働くことがあったので、そのときのことを考えるだけでゾツとしてしまいます。

### リーダーになるツール

役立つ書籍や道具などを紹介



### 『リーダーズアカデミーHP』

今回は、嶋津さんが代表を務めるリーダーズアカデミーのホームページを紹介。その業務内容は「次世代リーダーを育成するリーダーズアカデミーの主催」などから「ベンチャー企業への投資」まで幅広い。嶋津さんの最新の活動や著作の情報もここでチェックできる。

上げ、やがてその部下たちが上司になってまた数人の優秀な部下を育て上げるというこの連続を考える、優秀な上司がたった1人いるだけでも、ネズミ算式に世の中へ優秀な人材が排出されていくことがお分かりいただけると思います。そう考えますと、わたしは部下を育成するということは、この世の中で一番の社会貢献になるのではな

いかと考えています。  
人材を輩出する重要な役割自覚

上司の方々には、豊かな社会と明るい未来創りをしていくためにも、社会の中でとても重要な役割と責任を担っている自覚を持つていただきたいものです。その勉強のために、わたしの独自メソッド『最強の部下を育成せよ』最強の組織を作る 上司学について書いてこない!』だから部下がついてこない!』、『あたりまえだけどなかかなできない上司のルール』などをぜひお読みください。  
(記事協力 Asia X)